

ID No.	3021
研究課題名	内在性自己 RNA である、small nuclear RNA の免疫賦活性の検討
研究代表者	西尾 純子 (東京大学・特任助教)
研究組織 受入教員 研究分担者	一戸 猛志 (東京大学医科学研究所・准教授) 根岸 秀雄 (東京大学・特任助教) 中島 由紀 (東京大学・大学院生)
研究報告 H29 年度においては、U11 snRNA の抗インフルエンザウイルス応答の増強効果について検討を行った。マウスのインフルエンザウイルス感染モデルにおいて、U11 snRNA を投与し、その効果を検証したところ、予想に反して抗ウイルス応答の増強は見られなかった。その後の解析によって、U11 snRNA が免疫性を発揮するには内在性の結合分子が必要であることが判明した。上記の結果は U11 snRNA の投与の方法が生理的状況に則していなかったことが原因であると考えられる。我々はこの結合分子の一つとして抗菌ペプチドの LL37 を同定した。そのため、今後は、結合分子と U11 snRNA の複合体を投与し、さらに生理的状況に近い実験系において、U11 snRNA の抗ウイルス応答増強効果を検証する。また当初より計画していた U11 snRNA コンディショナルおよびトランスジェニックマウスの作製が完了したことから、それらのマウスを用いて U11 snRNA の抗インフルエンザウイルス応答増強効果を検討する。	